

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.154

2006年3月

名古屋大学インターナショナル・アドバイザリーボードを開催



<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

「体の一部を再生する新しい医療」を開催

●医学部

医学部組織工学（日立メディコ）寄附講座及び細胞治療学（ハイメディック）寄附講座は、1月21日（土）、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」の一つとして、「体の一部を再生する新しい医療」を開催しました。

このプログラムは、独立行政法人日本学術振興会が実施している中高校生を対象とした科学研究費補助金による研



講演の様子

究成果の社会還元・普及事業で、本学では今年度2件採択されました。

「体の一部を再生する新しい医療」では、同講座の研究対象である再生医療・組織工学・細胞治療の最新研究成果の紹介だけでなく、若い世代に研究の楽しさや難しさ、研究に通じる進路を伝えることを目指したプログラム作りが行われ、その結果、当初想定していた30～40名を上回る60名を超える中高校生の参加がありました。

当日は、再生医療についての講演のほか、ビデオ上映、体験実習、研究者の様々な経歴紹介、スナックタイム等が行われ、興味津々に参加する中高校生の姿が見られました。特に、体験実習では、細胞操作や実験操作を行った参加者から驚きの声や歓声があがっていました。アンケートでは、「自分も研究をやってみたいと思った」、「最新の研究にびっくりした」、「動いている細胞を見て衝撃的だった」、「学校では触れられない経験ができて楽しかった」等の声が多く寄せられるなど、近年理系離れの進む中高校生に科学の楽しさを伝えることができました。

医療セミナー「質の高い連携医療の確立に向けて」を開催

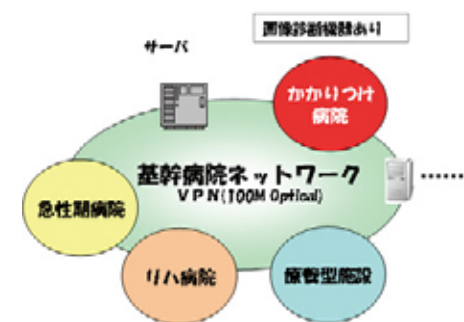
本学と東海医療情報ネットワークコンソーシアムは、2月4日（土）、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて、医療セミナー「質の高い連携医療の確立に向けて」を開催しました。

このセミナーは、受託研究事業「病院間における医療情報システムの相互運用性に関する調査」（研究代表者：吉田 純医学系研究科教授）の一環として開催されたもので、160名を超える参加がありました。今回のテーマである「連携医療」は、昨年12月の医療制度改革大綱の骨子の

一つで、医療機関の機能分化と連携を進め、予防から治療・介護に至る一貫した医療サービスの提供体制を意味しており、質の高い医療を実現するための方法として昨今注目されています。

セミナーでは、吉田教授による「病院中心から患者・市民中心の連携医療の確立に向けて」、野口 宏愛知医科大学高度救命救急センター長による「救命救急医療の最前線」及び小山 樹(株)ジェネラス代表取締役による「介護医療の現状と問題点」と題する講演、伊藤雅治全国社会保険協会

連合会理事長による「医療制度改革と医療連携」と題する特別講演が行われ、連携医療をどのように構築すべきか、連携医療はどうあるべきかについて、医療、介護、医療制度といった異なる視点から眺め、患者中心の医療や介護の進むべき方向性を参加者とともに考えました。



基幹病院医療情報ネットワーク

HiMeLC（ハイメルク）システムの特徴

High Medical Life Community

- ・ 患者中心の医療体制の確立
- ・ 医療機関の機能分化
- ・ 分業による効率化
- ・ 疾患別連携医療ネットワーク
- ・ 疾患完結型・地域完結型医療の実践
- ・ 地域連携バス（ネットバス）の実践
- ・ ベンダーの特長性の確認